

砂郷化文の發行

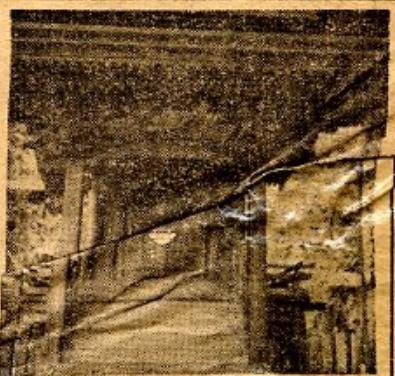
鳥取図書館だより
砂郷文化の發行
昨年十二月第七号、開館日は来年一月十日で、規
二十周年記念特格はB₅である。内容は
集号として発行関係当局の祝辞、新館に
以来、鳥取大火 寄せる言葉(アンケート)
によつて予算削減の結果、月刊ことば」新に登場した
とした性格を失、「民謡をたずねて」の第
い、目下工事中一回松田重雄氏の「人形
の附属建築竣工昔話」その他図書館関係
を記念して、「記事となつており、定価
附屬建築落成記 無料で、御希望者は企画
念号」として、係まで申込まれたい。
第八号を発行す

新着図書案内

書名	著者名	出版社名	分類
日本の現勢(二八年度)	共同通信社		
私たちの生活百科辞典			

には村社に列せられ、同六年十青木の馬場に渡御を許され、二月には湯所神社と改称され、同四十四年四月には祭事に於て、同社は神體と略殿が再建され、月には祭事に於て、鳥取三大祭の一つに数えられていたと謂はれて定されました。この神社は夫婦和合の神と称され、大慶、後慶、申辰によく御神事を行なわれました。拝殿も来年には是非共重建いたしたいと美しい努力が続かれています。十一月六日まで祭事は行なわれます。

対話は再びされた神隕と幣賀



知つていて、忘られ勝な火の用心

候補者氏名 要旨 支出	公職の候補者の選舉運動に関する取扱報告書	
	近藤、壹子	浅沼、喜実
米村 信一	矢部 雄男	今村 雄一
二五、一、一五、一、二八 六〇〇、九〇〇、一〇〇 二〇〇、〇〇〇	二五、一、一〇、三五、四〇 五〇〇、〇〇〇	二五、一、一〇、三五、四〇 五〇〇、〇〇〇
二一一、一五、一、二八 六〇〇、九〇〇、一〇〇 二〇〇、〇〇〇	二五、一、一〇、三五、四〇 五〇〇、〇〇〇	二五、一、一〇、三五、四〇 五〇〇、〇〇〇
自修金及損料費 自動車運送費 燃料費	通信費 廣告費 運送費 本費	通信費 廣告費 運送費 本費
借金 借款及損料費 消耗品費 及損料費	借金 借款及損料費 消耗品費 及損料費	借金 借款及損料費 消耗品費 及損料費
谷口恵五郎		
六二、一、一五、一、二八 六〇〇、九〇〇、一〇〇 二〇〇、〇〇〇	六二、一、一五、一、二八 六〇〇、九〇〇、一〇〇 二〇〇、〇〇〇	六二、一、一五、一、二八 六〇〇、九〇〇、一〇〇 二〇〇、〇〇〇
通借金 耕製本費 及損料費	通借金 耕製本費 及損料費	通借金 耕製本費 及損料費
済原告費 水料費 費	済原告費 水料費 費	済原告費 水料費 費
債金 借款及損料費 消耗品費 及損料費	債金 借款及損料費 消耗品費 及損料費	債金 借款及損料費 消耗品費 及損料費
自動車運送費 本費	自動車運送費 本費	自動車運送費 本費
支 出 総額 件 数	支 出 目 的	支 出 目 的

平和条約策定初めての新春
を迎えるに当たりまして恒
例による鳥取市主催の新
年市民合同祝賀会を明年
一月一日午前十一時から

新年市民合同祝賀会に

多数の御参加を！

寄附者の氏名又は団体名	件数
寄附の総額 ニ〇〇	一
富善校区婦人会	ク
久松校区婦人会	ク

四 公職の候補者の選挙運動に関する収支に関する報
告書の要旨
主要な寄附者及支出

鳥取市選挙管理委員会告示第六三号
昭和二十七年十二月一日
鳥取市選挙管理委員会委員長 松久常蔵
鳥取市選挙管理委員会告示第五六号の内容の一部を次の様に訂正する。

議會	鳥取県労働組合協 同 委員会	三、四〇	二
六、六七	寄附金	一	白川賀
一一、一	食料費	一	二

六一三
金借自債廣通
溫料動金告信
費運搬費
及車燃費
損料費

支 出 目 的	支 出 件 数	經 程	支 出 金額	名 稱	會 員	支 出
支 出 目 的	支 出 件 数	經 程	支 出 金額	名 稱	會 員	支 出

鳥取県労協選挙学習会	鳥取市西原町
電気労働者	鳥取市西原町
馬鹿富日 暴文桑進 印館校 刷印区区 所婦婦 所人 会会	鳥取市西原町
電 氣 労 動 者	鳥取市西原町

婦人団体名	その他の寄附の件数	寄附者の氏名又は団体名	職業	住所又は主なる事務所の所在地
婦人団体会議会	二〇〇〇	明徳学校区婦人会	事務員	新宿区西早稲田二丁目二番地
婦人団体会議会	一〇〇〇	明徳学校区婦人会	事務員	新宿区西早稲田二丁目二番地
婦人団体会議会	一〇〇〇	明徳学校区婦人会	事務員	新宿区西早稲田二丁目二番地
婦人団体会議会	一〇〇〇	明徳学校区婦人会	事務員	新宿区西早稲田二丁目二番地

主要な審附者及支出

年末が近づきました

戸締りに注意

致しましよう